第44回

少年の主張全国大会

わたしの主張 2022

全国の参加者から選び抜かれた 12 名の中学生が日頃抱いている思いや考えを発表します。
中学生の鋭い感性と素直な想いから生まれる〝主張〟を真っ直ぐに届けます。（昨年度応募者：約 40 万人）

「WEB開催」のご案内

中学生の創造性豊かな主張が持続可能な社会への契機となります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

開催期間 令和4年11月１日（火）～11月30日（水）

上記の期間、少年の主張全国大会WEBページに全国大会出場者（12名）の主張発表動画を掲載し、審査委員会で審査した結果を11月13日（日）に掲載します。
なお、全国大会に選出されなかった都道府県推薦作品については、作文を掲載します。

少年の主張全国大会
「WEB開催」ページはこちら ▶
https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyou/

令和4年11月13日（日）
全国大会審査結果発表日

《お問い合わせ》国立青少年教育振興機構 教育事業部
事業課 事業係 TEL：03-6407-7726（土日祝日を除く平日 9:00-17:45）FAX：03-6407-7699
青少年機構ＨＰ https://www.niye.go.jp

主催／国立青少年教育振興機構
協力／都道府県、青少年育成道府県民会議、全国青少年育成県民会議連合会、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会、公益社団法人日本PTA全国協議会
後援／内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、NHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構
内閣府子供・若者育成支援推進強調月間関連事業

第 43 回大会受賞者のコメント

内閣総理大臣賞受賞

認め合うことの大切さ

岐阜県代表　養老町立高田中学校

細川　士禾 さん

障がいに対して知識がある人、ない人も含め、みなさんに聞いてもらいたいです。今年、パラリンピックが開催され、たくさんの障がいをもった方が活躍していました。僕は一生懸命に競技に向き合う選手の姿に感動しました。きっと多くの人も障がいについて知る機会になったはずです。僕の主張も障がいについて考えるきっかけになっていくれればいいと思います。

文部科学大臣賞受賞

「心のマスク」をはずして

山梨県代表　北杜市立甲陵中学校

平澤　朋佳 さん

コロナウイルスがまん延したことで、マスクという存在は生活を送る上で必要不可欠なものとなりました。ですが、毎日マスクをつけるようになったことで顔の大半が隠れ、コミュニケーションの質に大きな変化が起こったのではないでしょうか。表情や口の動きなど、言葉だけではないコミュニケーションの情報が制限されたことで、受け取り方に差や誤解が生まれやすくなったように感じます。この変化に対応するために、私たちの心にも変化が必要だと考え、この作品を書きました。

国立青少年教育振興機構理事長賞受賞

本物の輝き

群馬県代表　太田市立南中学校

富田　樹香 さん

私はコロナ禍の生活を送る中で、バーチャルなツールの便利さや可能性を日々実感しています。

一方で、私の心に鮮明に焼き付いているのは、自らの身体で味わった感覚や、経験を通じて得た感動なのだということに気付き、このテーマで作品を書くことにしました。“本物”に触れるためには少し手間がかかります。それでも私は、いろいろなことを実際に見聞き・体験することを大切にしていきたいと思っています。また、この作品・発表を通して皆さんにもその気付きを共有してもらえたら嬉しいです。

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切です。少年の主張全国大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願い実施するものです。

これまでに受賞された先輩からのメッセージです。

重村（旧姓　高保）かおりさん

（第 19 回大会　内閣総理大臣賞受賞）

「あら、久しぶり。元気？」認知症の母が明るい声で電話にです。毎日朝昼晩、パーキンソン病の父と認知症の母に電話を入れるのが日課となっています。中学三年生の私が発表した「少年の主張」メッセージが 40 歳の私を勇気づけてくれます。祖父母の在宅介護をした両親を、私が介護する時がやってきました。想像以上に介護は体力的にも精神的にも大変です。25 年前より介護サービスは多様化し身近なものになりました。私達家族に合った介護と共に歩む生活を選択していきたいと思っています。そして小学生の我が子が身近にある家族の介護をどう感じるか、「共に生きる」のバトンを繋げていきたいと思っています。

牟田　悠一郎さん

（第 38 回大会　文部科学大臣賞受賞）

私は広島で生まれ、学校で平和教育を受けて育ちました。しかし、戦争を恐ろしいと感じるようになったのは小学六年生になってからです。きっかけは祖父から聞いた被爆体験でした。私はその時、初めて「戦争を知り」ました。この経験を基に私は大会での発表を決意しました。「僕は次にあの遠い夏、長崎で何があったのかを知りたい、今度は仲間とともに。」発表の最後に述べたこの想いは、高校生の時に実現することができました。現在は大学で平和教育を研究していきたいと考えています。当時「戦争を知ること」と題して行った発表は、今も私の原点となっています。私と同じように、この大会への出場が中学生の皆さんの今後の糧になっていくことを願っています。

井手上　漠さん

（第 39 回大会　文部科学大臣賞受賞）

この大会は、私に自信と勇気をくれました。「カラフル」と題し、様々な個性やお互いを尊重しあえる世界を願い出場しましたが、人前に立ち自分の事を話したのはこの大会が初めてでした。ですが予選から大会を重ねる毎に様々な経験や出会いがあり、自分自身を心から肯定できるようになってゆきました。発表者の方々と話す機会も多く、特に全国大会では様々な価値観に刺激を受けました。5 年たった今、私はモデルやタレントのお仕事をさせて頂きながらジェンダー平等の世界を願い様々な発信し続けていますが、今でも大会での経験はとても私の活力になっています。

「第 43 回少年の主張全国大会」の主張発表動画はこちらからご覧いただけます。

https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyou/download.html